

品名	フルオロカーボン 32 (ジフルオロメタン)						国連番号	3252							
該当法規・危険有害性															
消 防 法						毒物及び劇物取締法		高圧ガス保安法		火薬類取締法		道 路 法			
種 別						品名 (法別表)	毒物	劇物	特定毒物	一般高圧ガス保安規則 50 条	液化石油ガス	火薬	爆薬	火工品	施行令第 19 条の 12, 13 に該当
第 1 種	第 2 種	第 3 種	第 4 種	第 5 種	第 6 種										
									●						●
特 性	危 険 性					有 毒 性					環 境 汚 染 性		性 状		
	禁水性		爆発性		特定不活性ガス	有害ガス発生			眼・皮膚に接触と危険	河川への流入注意	固 体	液 体	気 体	水溶性	
				●		●							●	●	
事故発生時の応急措置															
<p>① 車を安全な場所に移動する。(人や人込みを避け、できるだけ交通の傷害にならないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)</p> <p>② 事故の発生を大声で告げ、下記の事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。</p> <p>③ 火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。</p> <p>④ 容器を覆っているシートを取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。</p> <p>⑤ 風上より、消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害防止措置を行う。</p> <p>⑥ 下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。</p>															
緊急通報															
<p>119 (消防署) 110 (警察署) 高速道路の非常電話</p> <p>【緊急通報例】</p> <p>① いつ ○○時○○分頃</p> <p>② どこで ○○市○○地区(国、県、市)道○○号線 ○○付近で</p> <p>③ なにが 「フルオロカーボン32(フロン)(高圧ガス)」が</p> <p>④ どうした 漏れています。 漏れて火災になっています。</p> <p>⑤ ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします)。 ケガ人は居ません。</p> <p>⑥ 私の名前は ○○運送会社 ○○です。</p>															
緊急連絡 (特に休日・夜間に確実に連絡が取れる部署の電話番号)															
荷主会社	株式会社 日本冷凍設備					運送会社	フロン急便 株式会社								
住 所	東京都港区芝公園3-5-8					住 所	東京都港区霞ヶ関1-1-1								
電 話	平日・昼間 03-1234-5678					電 話	平日・昼間 03-2345-6789								
	休日・夜間 090-1111-2222						休日・夜間 080-2222-3333								

品名	フルオロカーボン 32 (ジフルオロメタン)						国連番号	3252					
災害拡大防止措置													
特記事項						処理剤							
<p>① ガスが漏えいした場合、空気中の濃度が 13.8% から 29.9% の間では火災や爆発の危険が生じるので、容器を覆っているシート内に滞留しないよう注意する。</p> <p>② 熱、火花、裸火、高温のような着火源から遠ざけること。禁煙。</p> <p>③ 液体に接触すると凍傷をおこす。</p> <p>④ 裸火や高温面に触れると熱分解し、有毒ガスを発生させることがあるので接触しないようにする。</p> <p>⑤ 容器内充填圧力 : 25°C で 1.69MPa 相対密度(ガス比重) : 1.8 (空気を 1 とする) 色・臭い : 無色・無臭 沸点 : -51.7°C 飽和液密度 : 0.961g/cm³(25°C) 爆発限界 : 下限 13.8vol% 29.9 vol% (空気中)</p>													
漏えいしたとき													
<p>① 通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。付近の着火源を直ちに取り除く。</p> <p>② 防災工具を用いて、風上であつ漏えいしているガスの吹き出し方向の反対側より、容器バルブ又は漏えいしている部分を速やかに増締めし、漏れを止める。</p> <p>③ 漏えいが止まらないときは、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。</p> <p>④ 密閉した車内で漏えいした場合は、直ちに車外に脱出し、扉を開放したままにする。</p>													
周辺火災のとき													
<p>① 容器を安全な場所へ移動する。</p> <p>② 移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。</p>													
引火・発火したとき													
<p>① 近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、風上より消火し、漏えい防止措置を施す。</p> <p>② 容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。</p> <p>③ 周囲及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のガスがなくなるまで燃焼させる。</p>													
救急措置													
<p>① 皮膚に付着した場合は、直ちに衣服や靴を脱がせて、ぬるま湯で十分洗い流す。凍傷にかかって居る場合や痛みが残る場合は、部分をこすらず、患部を温湯で徐々に温めて常温に戻し、その後医師の処置を受ける。</p> <p>② 多量に吸引した場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、安静を保ち、保温につとめ、呼吸困難な場合は、人工呼吸を行う。</p> <p>③ 目に入った場合は、直ちに多量の水で 15 分以上洗う。</p> <p>④ 患者が発生した場合は、できるだけ早く医師の手当てを受ける。</p>													

参考例 R32のイエローカード

出典：一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 2017年5月18日制定
 業務用冷凍空調設備フロン類充填ガイドライン JRC-GL-02:2017